

地域プロジェクト演習とは

地域デザイン科学部では、地域の将来を担う人材の育成を目指しコミュニティデザイン学科、建築都市デザイン学科、社会基盤デザイン学科の3学科が一緒に学ぶ共通専門科目を設置。地域プロジェクト演習は3年次の学生を対象としたその集大成ともいえる全学科必修の共通専門科目（通年）。

授業概要

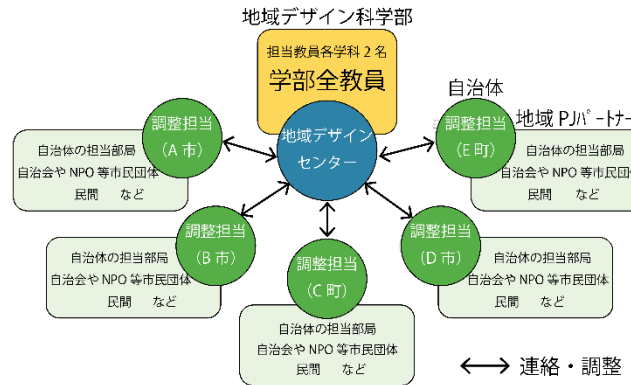
3学科混成で5人1グループに分かれて、それぞれに修得した学部の共通専門科目や各学科の専門科目の内容を総合して、地域における実際のテーマを扱う演習。栃木県内の多様な主体を対象に、自らの力で地域探索やヒアリング、各種調査を実施し、収集したデータを分析して、問題の明確化やそれに対する解決策を提案。

各グループが携わるテーマに応じて、それぞれの分野の教員が自治体と連携しながら指導。

目的

地域対応力に必要な主に下記の能力、適切な調査設計や調査分析を行う能力、地域探索において自主的に行動し具体的な解決策を提案する能力、グループ単位の口頭発表会において資料を作成し、プレゼンテーションを行う能力の育成。

運営体制のイメージ



* 地域PJパートナー: 学生が現地調査を行う際の主たる受入先団体のことを示します。

調整担当（自治体）の主な役割

- ・ 大学との連絡・調整
- ・ 地域PJパートナーの紹介・調整
- ・ 現地調査に必要な情報提供
- ・ 学生の安全確保への配慮 など

地域PJパートナー（受入団体・組織）の主な役割

- ・ 学生が現地調査を行う際の主たる受入
- ・ ヒアリングへの対応
- ・ 地域特性に関する事項の紹介・提供
- ・ 問題整理や課題解決策に対する意見交換 など

経費について

運営に関する受入自治体の費用負担は原則なし。

テーマおよび地域PJパートナーの決め方

地域の状況やニーズに応じて設定。

<想定される決め方>

- ◆ 自治体が抱える課題などをテーマとし、それに応じた地域PJパートナーを調整し決定。
- ◆ 地域PJパートナーが抱える課題をテーマとし、地域PJパートナーが所在する自治体が調整し決定。
- ◆ 地域デザインセンターがテーマおよび地域PJパートナーを提案・調整し決定。

* 参照『地域プロジェクト演習』について【自治体版】

授業成果の共有

- ◆ 学生の分析結果は地域へ提供。
- ◆ 年3回実施される合同発表会は、自治体および地域PJパートナーへ公開。ただし、優れた内容の数チームは、一般公開の場で報告。

実施までの流れ

平成29年度

- 4～8月 協議・地域PJパートナーの選定・調整
- 9月頃 受入についての「覚書」を締結
- 10～3月 地域PJパートナーの確定・受入に向けた調整

授業開始に向けて

地域PJパートナーのためのマニュアルを作成。

※ 以上をふまえ、体制が整った自治体より順次開始。